

Technics®

ターンテーブルシステム

品番 SL-1200LTD

取扱説明書



■この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保存し、必要なときお読みください。

■保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

上手に使って上手に節電

RQT3174-S

このたびは、ターンテーブルシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

もくじ

準

安全上のご注意	3
各部の名称	6
お使いになる前に	6
組立てかた	6
針圧調整のしかた	8
接続のしかた	9
プレーヤーの設置	10

備

演

奏

演奏のしかた	10
調整のしかた	11

ご

参

考

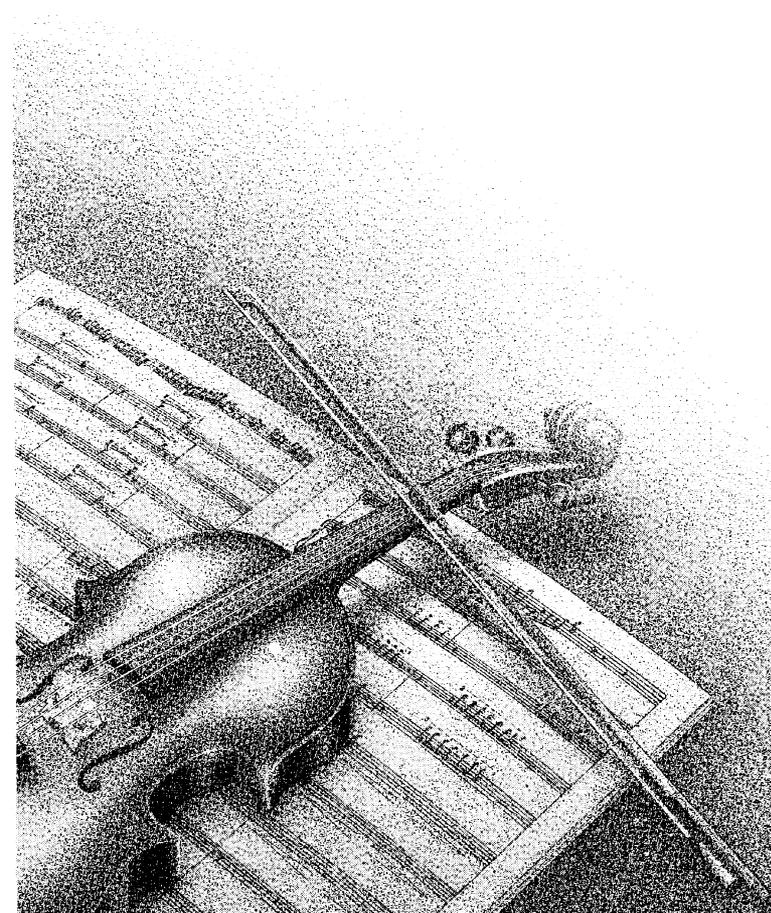
取扱い上のご注意	12
定格	13
保証とアフターサービス	14

音のエチケット

楽しい音楽も場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク



安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

もし異常が起きたら

機器内部に金属や水、異物が入ったら、電源プラグを抜く



電源プラグを抜く

- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したときは電源プラグを抜く



電源プラグを抜く

- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

電源コードについて

加工したり、無理な力を加えたりしない



- コードが傷つき、火災や感電の原因になります。
- 芯線が露出するなど、コードが傷んだ場合は、使用を中止し、販売店にご相談ください。

プラグのさし込みが不完全な状態で使わない



- 接触不良により発熱し、火災や感電の原因になります。
- たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

プラグにほこりが付いた状態で使用したり、金属物を近づけたりしない



- 電気がほこりや金属物を伝わり、火災や感電の原因になります。
- ほこりがたまったときは、プラグをコンセントから抜き、ほこりを取り除いてください。

⚠ 警告

雷について

雷が鳴ったら、アンテナ線や機器の金属部、プラグに触れない



接触禁止

- 誘導雷により、感電の恐れがあります。

ご使用について

電源は交流（AC）100Vを使う



- 自動車や船などの直流（DC）電源に直接つないだり、指定外の電圧や電源で使用すると、火災や感電の原因になります。

機器の上に、液体の入った容器や小さな金属物を置かない



- 中に入った場合、電気が液体や金属物を伝わり、火災や感電の原因になります。

水をかけたり濡らしたりしない



水場使用禁止

- ショートや発熱により、火災や感電の原因になります。
- 水が入ったときは、電源プラグを抜き、販売店にご相談ください。

ネジをはずしたり、分解、改造したりしない



分解禁止

- 内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理などは、販売店へご依頼ください。

⚠ 注意

設置・接続について

不安定な場所に置かない



- 機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

機器の上に大きいものや重いものは載せない



- 倒れたりして、けがの原因になることがあります。

油煙や湯気の当たるところや湿気やほこりの多いところに置かない



- 電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

異常に温度が高くなる場所に置かない



- 機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 夏の閉め切った自動車内や直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

お手入れについて

お手入れの前には、電源プラグを抜く



電源プラグを抜く

- 入れたままにしておくと、感電の原因になることがあります。

⚠ 注意

電源コードについて

抜き差しはプラグを持つ



- コードを引っ張ると、コードが傷ついたり、ちぎれたりし、火災や感電の原因になることがあります。

熱器具に近づけない



- コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因になることがあります。

濡れた手でプラグを抜き差ししない



- 感電する恐れがあります。

持ち運びについて

コードを接続した状態で移動しない



- 接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。
- また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

機器の上にものを載せたまま移動させない



- 倒れたり、落下して、けがの原因になることがあります。

ご使用について

機器に乗らない



- 機器が破損してけがの原因になることがあります。
- 特にお子様にはご注意ください。

長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグを抜いておく



電源プラグ
を抜く

各部の名称

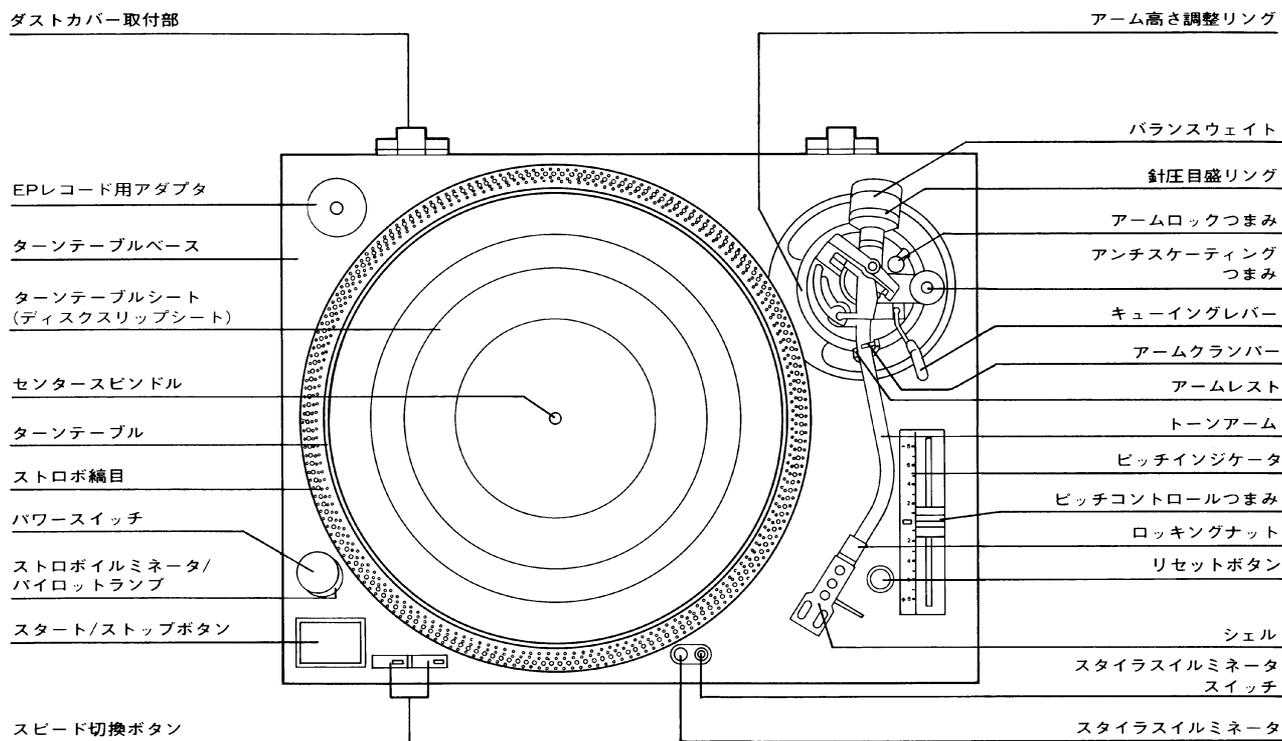


図1

お使いになる前に

本機は輸送時のショックから保護するために一部の部品を取りはずして包装しています。

次の順序に従って組立ててください。

■部品の確認

本体	1
ターンテーブル	1
ターンテーブルシート	1
ディスクスリップシート	1
ダストカバー	1
EPレコード用アダプタ	1
バランスウェイト	1
補助ウェイト	1
シェル	1
シェルウェイト	1
オーバハングゲージ	1

組立てが完了するまでは電源プラグをコンセントに差し込まないでください。

またダストカバーの取り付けは組立ての最終工程で行なうようにしてください。その他の組立て、調整がスムーズに行なえます。

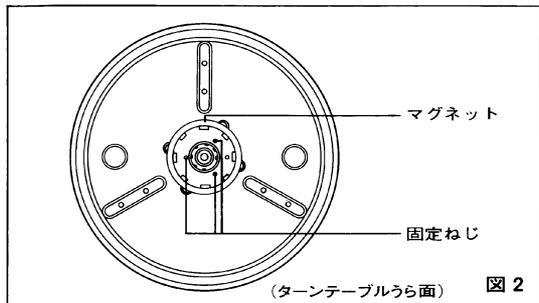
組立てかた

■ターンテーブルの取り付け

1. ターンテーブルをセンタースピンドルにはめます。

ご注意

- ターンテーブルを取りつける場合、本体に当たらないようにご注意ください。
- ターンテーブルの裏面内側にはマグネットがついています。ごみや鉄粉等が付着しないよう、また、高い所から落したりして、マグネットを破損させないよう、取扱いには充分ご注意ください。
- マグネットを固定している3カ所のねじは、さわらないでください。(図2)
万一、固定ねじをゆるめ、マグネットの取付位置を変えられた場合は、定格性能の保証はできません。



2. ターンテーブルシートをターンテーブルにのせます。

■ ディスクスリップシートの使いかた

ターンテーブルシートの代わりに使用すると、ターンテーブル回転中に、手でレコードを止めたり、逆転させることができます。

- 表面(印刷面)・・・レコード装着面
- 裏面……………スリップ面

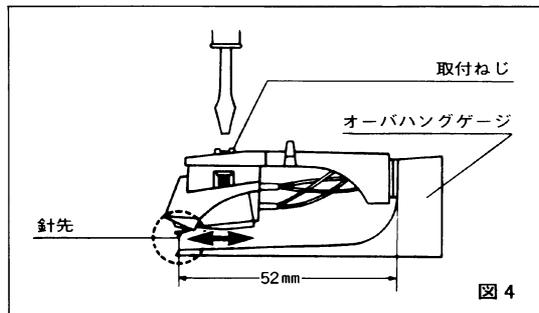
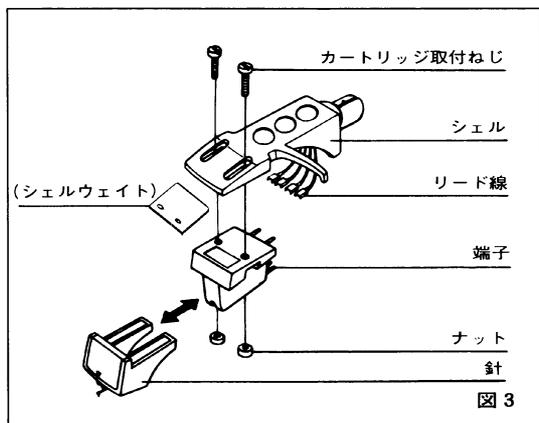
■ カートリッジの取り付け

1. 図3を参考に、ご使用のカートリッジ説明書に従って正しく取りつけてください。
2. この場合、オーバハングを調整する必要があります。

図4のように付属のオーバハングゲージにシェルを取りつけて、針先を合わせますと、正しいオーバハングが設定できます。カートリッジ取付ねじを少しゆるめカートリッジを矢印方向に動かしながら合わせます。

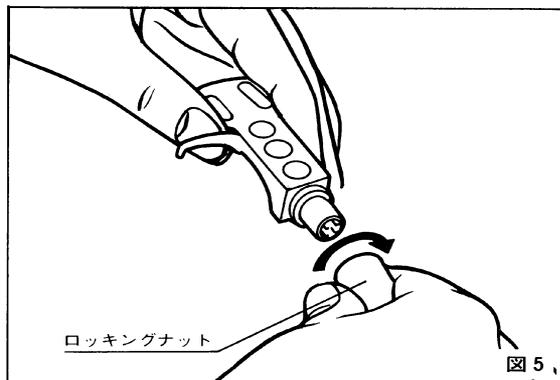
ご注意

軽いカートリッジ(3.5~6.5g)を取りつける場合は、付属のシェルウェイトをご使用ください。



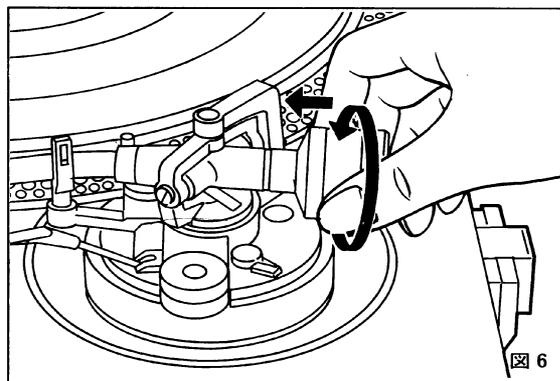
■ シェルの取り付け(図5)

シェルのプラグ部をトーンアームの先端にはめ、シェルを水平に保持しながら、ロックングナットを矢印方向にまわして、しっかりと固定します。



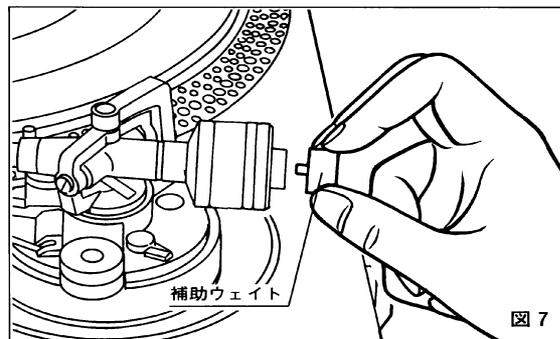
■ バランスウェイトの取り付け(図6)

トーンアームの後部軸に、バランスウェイトを取りつけます。



ご注意

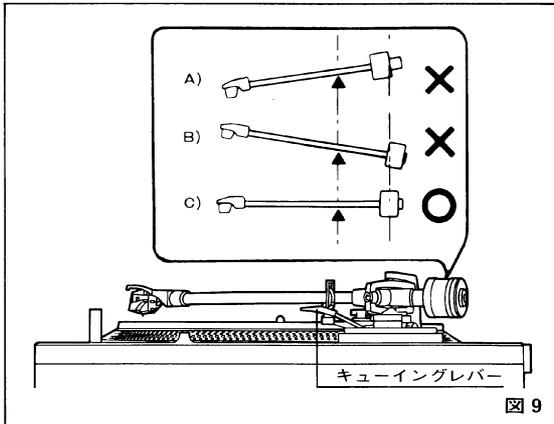
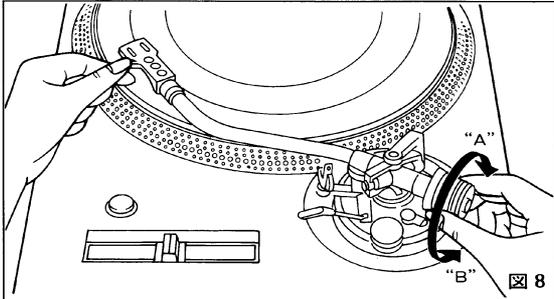
カートリッジ重量が10gを超える場合は、アーム後部軸に付属の補助ウェイトを取りつけてください。(図7) 補助ウェイトを使用した場合は、カートリッジの重量は9.5g~13gまで使用できます。



針圧調整のしかた

■水平(ゼロ)バランスの調整および針圧調整

1. 針先にふれないように注意して、針カバーをはずします。
2. アームクランパーをはずし、トーンアームをアームレストから離して、フリーの状態にします。(図8)
3. バランスウェイトを矢印(A)方向、(B)方向にまわしながら、トーンアームがほぼ水平の状態になるまで調整します。(図8、9)
(キューイングレバーは図9のように下に倒しておきます。)



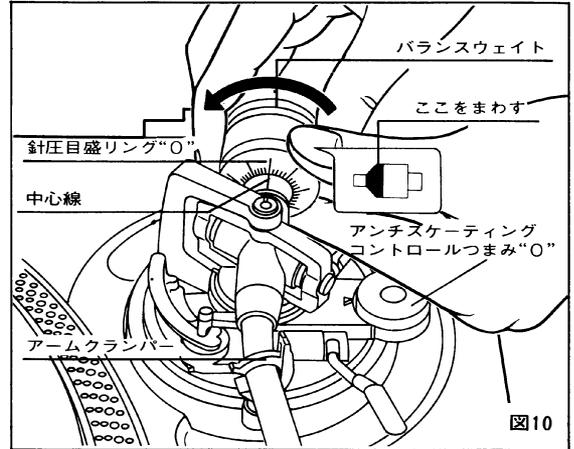
ご注意

- A) バランスウェイトが前方にきすぎているため、カートリッジ側がさがります。
- B) バランスウェイトが後方にきすぎているため、カートリッジ側があがります。
- C) バランスウェイトとカートリッジのバランスがとれた状態。トーンアームが水平になります。

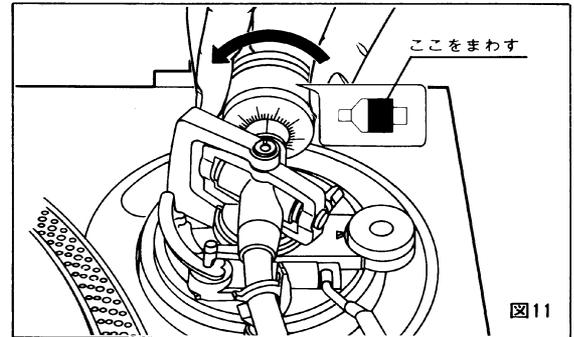
● 水平バランスを調整するとき、カートリッジの針先がターンテーブルシートや本体に、触れないようにご注意ください。

4. 水平バランスを調整した後トーンアームをアームレストに戻し、アームクランパーでいったん固定します。

5. 図10のように、バランスウェイトが動かないように指で支えて、針圧目盛りリングだけをまわし、目盛りリングの数字“0”をアーム後部軸の中心に合わせます。
(これで水平バランス調整は完了です。)



6. バランスウェイトを矢印方向にまわし、ご使用カートリッジの適正針圧値に合わせます。(図11)

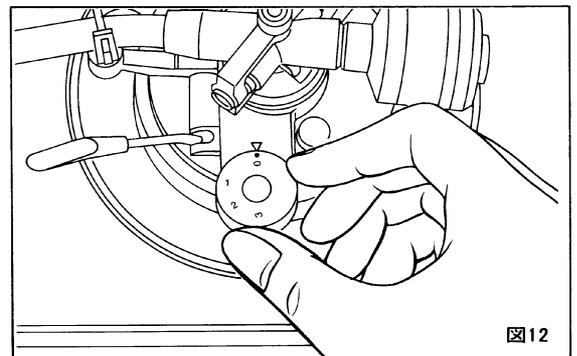


ご注意

バランスウェイトをまわしますと、針圧目盛りリングも一緒にまわりますから、目盛りリングを直読しながら、適正な針圧に調整してください。

■アンチスケーティングの調整(図12)

針圧値と同じ目盛に合わせます。



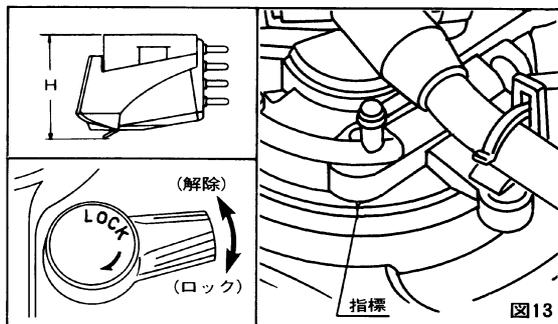
■アームの高さ調整(図13)

アームの高さ調整リングには、0.5mm刻みで6mmまで目盛を設けていますから目盛を直読して高さ調整ができます。アーム高さ調整リングの目盛とご使用カートリッジの寸法(H)を参考にアームの高さを設定してください。アームの高さ調整をするときは、アームロックつまみをまわしロックを解除してください。

カートリッジの寸法(H) (mm)	高さ調整リングの目盛位置
15	0
16	1
17	2
18	3
19	4
20	5
21	6

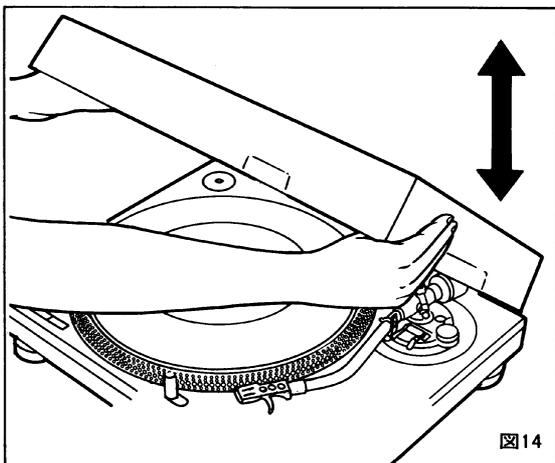
ご注意

アームの高さ調整後は、必ずアームロックつまみをロックしてください。



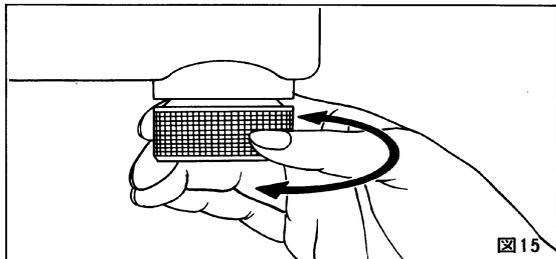
■ダストカバーの取り付け(図14)

ダストカバーの両側を支えて、真上よりはめ込みます。はずす場合も必ず図のようにダストカバーを開けた状態で行なってください。



■本体の高さ調整(図15)

脚/インシュレータは、プレーヤ本体の高さ調整機能も兼ねています。ご使用になる場所に設置した後、本体が水平になるように調整してください。



接続のしかた

■PHONO端子の接続(図16)

PHONO端子側		アンプ側
白色(L)	→ PHONO	L の入力端子へ
赤色(R)	→ PHONO	R の入力端子へ
黒色(アース線)→		GND の端子へ

ご注意

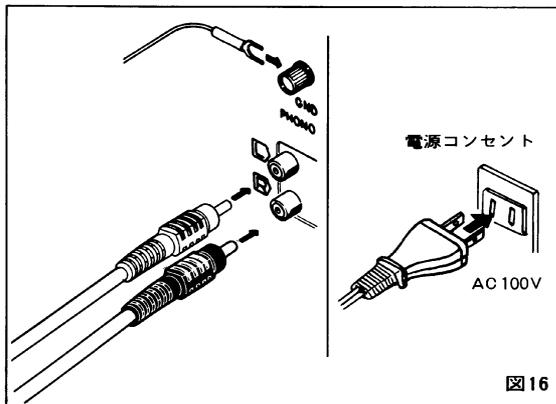
アース線の接続は必ず行なってください。アース線を接続しないと電源ハム(ブーンという音)が出ます。

■電源プラグの接続(図16)

電源プラグをコンセントに接続します。

ご注意

- 1) 本機は交流(AC)電圧100Vでご使用いただくようになっています。
200Vの電圧や直流(DC)電源には絶対接続しないでください。
- 2) アンペアやレシーバ等の付属コンセント(ACアウトレット)に接続する場合は、そのコンセントに表示されたワット数を確認してください。本機の消費電力は13.5Wです。



プレーヤの設置

- 外部振動を受けない、しっかりした水平な場所に設置してください。
- スピーカシステムからできるだけ離して設置してください。
- 直射日光、ほこり、湿気などの多い場所や、暖房器具の近くは避けてください。
- 通風の良い場所を選んでください。
- ラジオ (FM/AM放送) を極端に近づけますと、ラジオに雑音が入る場合がありますので、できるだけ本機より離してください。

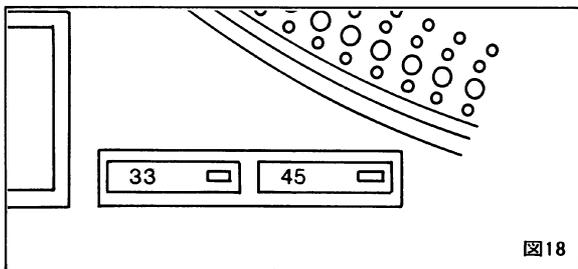
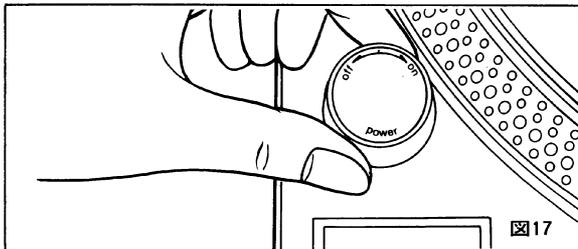
演奏のしかた

1. レコード盤をターンテーブルシートにのせます。
2. パワースイッチをまわし電源をonにします。(図17)

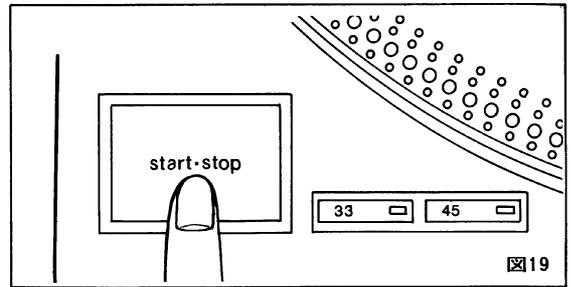
ご注意

パワースイッチをonにしますと、自動的に33 $\frac{1}{2}$ 回転にセットされます。

45回転のレコードを演奏するときは、スピード切換ボタンの45を押してください。(図18)



3. 針カバーをはずします。
4. アームクランプをはずします。
5. スタート/ストップボタンを押します。(図19)
ターンテーブルは回転します。

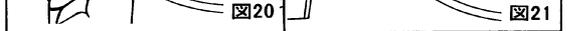
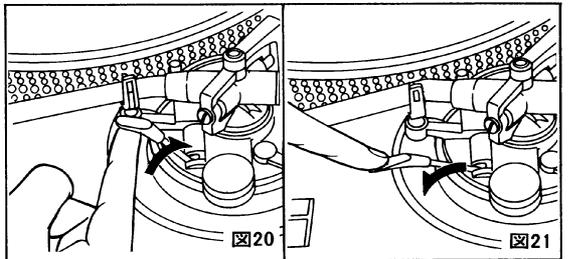


6. キューイングレバーを起こします。(図20)
トーンアームは上昇します。

7. トーンアームをレコード盤上に移動します。

8. キューイングレバーを倒します。(図21)

トーンアームは静かに下降し演奏が始まります。



9. 演奏が終了したら、トーンアームをアームレストに戻しアームクランプで固定してください。
また、針先保護のため針カバーをつけておいてください。
10. スタート/ストップボタンを押します。
ターンテーブルは電子ブレーキによりなめらかに停止します。
その後、パワースイッチをまわして電源をoffにしてください。

ご注意

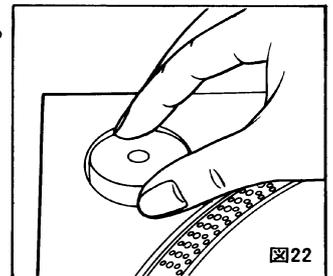
- スタート/ストップボタンを押さずにパワースイッチをoffにした場合、電子ブレーキは働きません。

■演奏を一時中断する場合

- キューイングレバーを起こします。
カートリッジの針先はレコード盤より離れます。

■EPレコードの演奏(図22)

- EPレコード用アダプタをセンタースピンドルにはめます。
スピード切換ボタンの45を押します。
- アダプタを取り出しやすくするためアダプタホールに段差を設けています。
図のように先端をおさえ、手前を持ちあげて取り出してください。



■スタイラスイルミネータについて

本機は、演奏中に針先を照明するスタイラスイルミネータを内蔵しています。スタイラスイルミネータスイッチを押しますと、スタイラスイルミネータが点灯し針先を照明する位置まであがります。(図23)

特に必要のないときは、スタイラスイルミネータを押さえ、さげておいてください。このときスタイラスイルミネータは消灯します。

ご注意

スタイラスイルミネータスイッチは、確実に押してください。

中途半端に押しますと、点灯したままでスタイラスイルミネータは上昇しません。

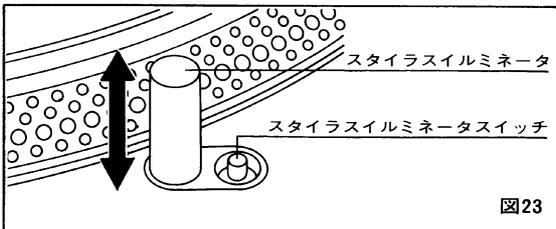


図23

調整のしかた

■ピッチコントロール(回転数の微調整)(図24, 25)

パワースイッチをonにして電源を入れます。

ピッチコントロールつまみが中心部にあるときは、緑のLEDランプが点灯しクリックのある位置で規定の回転数(33⅓か45r/min)が得られます。

ピッチコントロールは約±8%可変できますから、ピッチインジケータの目盛を目安に調整してください。インジケータの数値はおよその%を示しています。

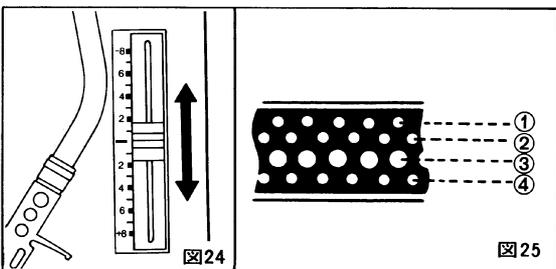


図24

図25

ターンテーブルの円周に刻まれた4列のストロボ縞目により細かいピッチの検出ができます。各々のストロボ縞目の停止して見えるときは①~④のピッチ変化を示しています。

①が停止して見えるときは、+6%のピッチ変化を示しています。

②が停止して見えるときは、+3.3%のピッチ変化を示しています。

③が停止して見えるときは、規定の回転数(33⅓か45r/min)を示します。

④が停止して見えるときは、-3.3%のピッチ変化を示しています。

ご注意

本機のストロボ縞目の照明には、クォーツの正確な周波数と同期したストロボイルミネータ(LED/赤色照明)を使用しています。回転数の微調整をするときは必ずこのLEDの照明をもとに行なってください。また、リセットボタンを解除しておいてください。

蛍光灯とは同期していませんから回転数の調整はできません。また蛍光灯下ではストロボ縞目が流れて見えますが異状ではありません。

リセットボタンについて(図26)

⊖ : ピッチコントロールつまみがどの位置にあっても規定の回転数(33⅓または45回転)になり、緑のランプが点灯します。

⊕ : ピッチコントロールつまみで調整した回転数になります。

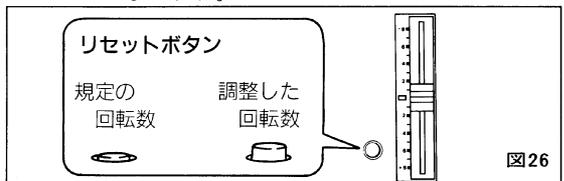


図26

■アームリフトの高さ調整(図27, 28)

アームリフトの高さ(キューイングレバーをあげて、針先とレコード面に生ずる間隔)は工場出荷時に約8~13mmの範囲で調整しています。(図27)

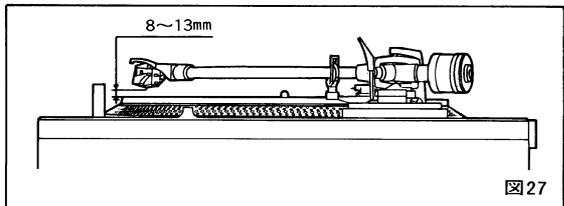


図27

ご使用カートリッジによって、とくに調整が必要な場合は、下記手順で調整してください。

- 針先保護のため、針カバーをします。
- ターンテーブルが回転ないようにパワースイッチをoffにします。
- ねじ頭は六角形になっていますから、必ずアームリフトを下方へ押えながらねじをまわしてください。(図28)

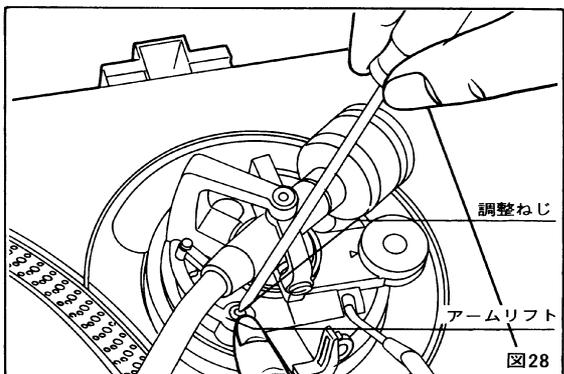


図28

時計方向——レコード盤と針先の間隔が狭くなります
反時計方向——レコード盤と針先の間隔が広がります

取扱い上のご注意

■針先やレコードに付着したほこりやごみはよく取り除いてください。

針先にほこりやごみがついたまま演奏しますと、針先がレコード音溝に正確に接触せず、音質が悪化するだけでなく、レコード盤や針先の損耗が早まります。

トーンアームからシェルごと取りはずし、やわらかい穂先のはけか毛筆などで根もとから針先に向かっていねいに取り除いてください。

また、レコード盤も良質のレコードクリーナーでよくふいてください。

■シェル端子は時どきふいてください。

シェルをトーンアームからはずしておきますと、シェル端子にほこりやごみがつき、接触不良を起こし、雑音が発生したり、ハムが大きくなったり、また、音が出なくなる場合がありますので、やわらかい布などで、シェル端子をふいてから、トーンアームに取りつけてください。

■シェルを着脱する場合、アンプのボリュームを“0”にするか、アンプの電源を“off”にしてから行なってください。

ボリュームをあげた状態でシェルの着脱を行ないますと不愉快な音がするだけでなく、スピーカをいためる場合があります。また、シェルを着脱する場合は、針先保護のため、針カバーをしてください。

■ダストカバーやキャビネットはやわらかい、かわいた布で空ぶきしてください。

ダストカバーやキャビネットをアルコール、ベンジン、シンナー等の溶剤でふかないでください。ダストカバーやキャビネットの光沢が失われたり、金メッキ部が変色したり、塗装がはげたりします。

また、化学ぞうきん等の使用も避けてください。

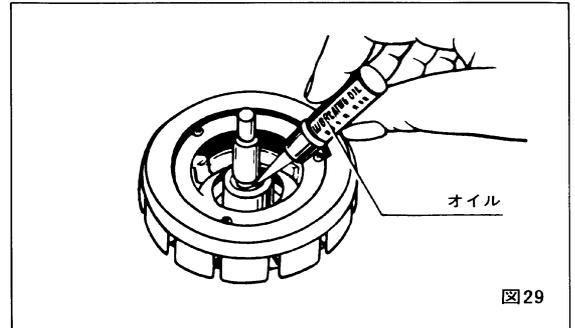
スプレー式の殺虫剤がダストカバーにかかりますと、「ひび割れ」や「くもり」が生ずることがありますからご注意ください。

万一、油類のようなものが付着して、空ぶきでは、きれいにならない場合は、うすい石けん水にやわらかい布をひたし、固く絞って汚れをふきとった後に、乾いた布で空ぶきしてください。この場合、水気は危険ですから、必ず電源プラグを引き抜いてください。

演奏中には、ダストカバーをふかないでください。静電気が発生して、トーンアームがダストカバーに引きつけられることがあります。

■注油について(図29)

本機は、2000時間に1回、2～3滴の注油で十分です。別売りの純正オイル(SFWO010)をお求めください。



■転宅などで、遠くへ運ばれるとき

購入時の包装材で、開梱のときと逆の方法で包装してください。包装材がないときでも、次のことは必ず行なってください。

- ターンテーブルシートとターンテーブルを抜きとって、傷のつかないように包装します。
- アームをアームレストに戻し、更にテープで結んで動かないようにしてください。
- バランスウェイトやシェル/カートリッジは、アームから取りはずし、傷のつかないように包装してください。
- 本体は、毛布や、やわらかい紙で、傷のつかないように包装してください。

定格

(総合)

電源……AC 100V, 50/60Hz
消費電力……13.5W
外形寸法……幅453×高さ162×奥行360mm
質量(重量)……12.5kg
(ターンテーブル部)
形式……クォーツダイレクトドライブター
ンテーブルシステム(マニュアル)
駆動方式……ダイレクトドライブ
駆動モータ……ブラシレスDCモータ
ターンテーブル……アルミダイカスト製、直径332mm
質量2kg(ゴムシート含む)
回転数…… $33\frac{1}{3} \cdot 45$ r/min
起動トルク……1.5kg·cm
起動特性……90°で定速回転、 $\frac{1}{4}$ 回転以内
($33\frac{1}{3}$ r/min)
ブレーキ機構……電子ブレーキ
回転数偏差…… $\pm 0.002\%$ 以内
ワウ・フラッタ……0.01% W.R.M.S.*
0.025% W.R.M.S. (JIS C5521)

※レコード、カートリッジ、トーンアームなどの影響を
除いた回転部(ターンテーブル含む)のみの回転数瞬時
変動を示します。この値は、モータ内蔵のF・Gからの
信号を用いて測定したものです。

S N 比……78dB (IEC 98A weighted)
(ランブル) 56dB (IEC 98A unweighted)

(トーンアーム部)

形式……ユニバーサルS字形トーンアーム
ジナルサスペンション軸受構造
スタチックバランス形
アーム有効長……230mm
オーバハング……15mm
トラッキングエラー角…… $+2^{\circ}32'$ (30cmレコード外周)
 $+0^{\circ}32'$ (30cmレコード内周)
オフセット角…… 22°
回転軸感度……水平、垂直、初動感度7mg以下
アーム実効質量……12g(カートリッジなし)
アーム高さ調整範囲……31.8~37.8mm
針圧調整範囲……0~2.5g(針圧直読式)
適用カートリッジ質量……6~10g
(シェル含 13.5~17.5g)
9.5~13g……補助ウェイト使用時
(シェル含 17~20.5g)
3.5~6.5g……シェルウェイト使用時
(シェル含 11~14g)
カートリッジ取付寸法……JIS規格12.7mm($\frac{1}{2}$ インチ)
取付間隔
シェル端子ラグ……1.2mm ϕ 4ピン端子ラグ

この定格は、性能向上のため変更することがあります。

保証とアフターサービス (よくお読みください)

修理・お取り扱い・お手入れ

などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理相談窓口」へ／
- 其他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ／

■保証書（別添付）

必ず、お買い上げの販売店からお買い上げ日・販売店名などの記入をお確かめのうえ受け取り、よくお読みのあと、保存してください。【保証期間：お買い上げ日から1年間】

■修理を依頼されるとき

まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店が修理させていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後8年間保有しています。

注) 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

サービス

北海道地区	
お客様ご相談センター 北海道 ☎011(221)8090 札幌市中央区北三条西1丁目	
修理相談窓口 札幌 ☎011(894)1251 札幌市厚別区厚別南2丁目17の7	
旭川	☎0166(31)6151 旭川市2条通21丁目左1号
帯広	☎0155(33)8477 帯広市西19条南1丁目7の11
函館	☎0138(53)7107 函館市山の手1丁目1の15

東北地区	
お客様ご相談センター 東北 ☎022(263)4208 仙台市青葉区国分町3丁目1の11	
修理相談窓口 青森 ☎0177(39)9712 青森市大字ハッ役字矢作1の37	
八戸	☎0178(45)8665 八戸市城下4丁目22の25
弘前	☎0172(34)6006 弘前市代官町86
秋田	☎0188(26)1600 秋田市御所野湯本2丁目1の2
大館	☎0186(42)0815 大館市片山町2丁目3の6
横手	☎0182(32)1752 横手市横手町字一の口3
盛岡	☎0196(47)1741 盛岡市上堂1丁目18の22
水沢	☎0197(24)7999 水沢市中田町5の10
仙台	☎022(375)2512 仙台市泉区市名坂字清水端59の2
古川	☎0229(23)8121 古川市北町5丁目1の1
石巻	☎0225(96)3209 石巻市元倉1丁目16の2
仙南	☎0224(52)1842 宮城県柴田郡大河原町字錦町6の15
山形	☎0236(41)8100 山形市流漕センター3丁目12の2
酒田	☎0234(26)5802 酒田市東向羽町7の15
鶴岡	☎0235(22)3285 鶴岡市宝田1丁目1の12
新庄	☎0233(22)7166 新庄市小田島町5の40
米沢	☎0238(22)7141 米沢市金池8丁目3の13
郡山	☎0249(45)4463 郡山市安積町荒井字大久保39の1
福島	☎0245(34)9121 福島市御山字一本木77の1
いわき	☎0246(34)5810 いわき市平中神谷字下知内59の4
会津	☎0242(22)6221 会津若松市町北町大字始字深町10

International Customer Care Center 海外ご相談センター

Consultation about products of specifications (export models, overseas production models and tourist models)

海外仕様商品(輸出製品・海外生産品・ツーリスト製品)についてのご相談は…

TOKYO AKIHABARA 秋葉原	☎03-3256-5444 1-8-1 Sotokanda Chiyoda-ku Tokyo
OSAKA NIPPOMBASHI 日本橋	☎06-645-8787 4-10-2 Nippombashi Naniwa-ku Osaka

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0595

首都圏地区

お客様相談センター

首都圏 ☎03(3435)9521
東京都港区芝公園
1丁目1の2

修理相談窓口

宇都宮 ☎0286(32)8450
宇都宮市中央1丁目
8の13

高崎 ☎0273(52)1217
高崎市萩原町沖中
205の18

岡毛 ☎0276(25)6870
太田市東新町244の1

水戸 ☎0292(25)0119
水戸市柳河町309の2

つくば ☎0298(55)7860
つくば市梅園2丁目
1の13

埼玉 ☎048(728)8960
浦川市赤堀2丁目4の2

千葉 ☎043(251)3537
千葉市稲毛区團生町
369の1

木更津 ☎0438(25)1125
木更津市貝淵4丁目
17の8

銚子 ☎0479(33)2723
銚子市野尻町1854

船橋 ☎0473(34)5111
船橋市本中山6丁目
11の7

柏 ☎0471(63)8905
柏市北柏1丁目7の6

東京 ☎03(5477)9780
東京都世田谷区経堂
5丁目26の8

甲府 ☎0552(22)5171
甲府市下飯田2丁目
1の27

横浜 ☎045(743)7090
横浜市保土ヶ谷区
狩場町169

新潟 ☎025(286)0171
新潟市東明1丁目
8の14

佐渡 ☎0259(23)2898
両津市秋津字境
108の1

長岡 ☎0258(28)2111
長岡市寺島町308の12

上越 ☎0255(44)6871
上越市大字藤野新田
字大割353の3

中部地区

お客様相談センター

中部 ☎052(951)3167
名古屋市中区泉1丁目
23の30

修理相談窓口

石川 ☎0762(94)2683
石川県石川郡
野々市町稲荷3丁目80

富山 ☎0764(32)8705
富山市寺島1298

福井 ☎0776(54)5606
福井市開発4丁目112

松本 ☎0263(58)0073
松本市大字世賀
7600の7

静岡 ☎054(287)9000
静岡市西島765

名古屋 ☎052(614)3136
名古屋南区
西又兵衛町3の48

岐阜 ☎058(323)6010
岐阜県本巣郡北方町
高屋太子2丁目30

高山 ☎0577(33)0613
高山市花岡町3丁目82

三重 ☎0592(55)1380
久居市森町字北谷
1920の3

関西地区

お客様相談センター

関西 ☎06(949)2050
大阪市中央区城見
2丁目1の61

修理相談窓口

滋賀 ☎0775(82)5021
守山市勝部町260

京都 ☎075(672)9636
京都市南区
上鳥羽石橋町20の1

大阪 ☎06(359)6225
大阪市北区本庄西
1丁目1の7

奈良 ☎07435(9)2770
大和郡山市椎木町
404の2

和歌山 ☎0734(75)1311
和歌山市中島499の1

神戸 ☎078(612)5035
神戸市長田区上池田
5丁目5の23

中国地区

お客様相談センター

中国 ☎082(242)9511
広島市中区国泰寺町
2丁目3の23

修理相談窓口

鳥取 ☎0857(26)9695
鳥取市安長295の1

米子 ☎0859(34)2129
米子市米原4丁目
2の33

松江 ☎0852(23)1128
松江市西洋田2丁目
10の19

出雲 ☎0853(21)3133
出雲市渡橋町416

浜田 ☎0855(22)6629
浜田市下府町327の93

岡山 ☎086(292)1162
岡山県都窪郡早島町
矢尾807

津山 ☎0868(23)1264
津山市北園町22の8

広島 ☎082(295)5011
広島市西区南観音
8丁目13の20

福山 ☎0849(53)8115
福山市御町2の14

尾道 ☎0848(20)2401
尾道市東尾道11の22

徳山 ☎0834(22)1627
徳山市浦山開作
8211の5

山口 ☎0839(89)4441
山口市大字佐山
1120の1

下関 ☎0832(56)4597
下関市秋根北町5の7

四国地区

お客様相談センター

四国 ☎0878(51)3338
高松市古新町8の1

修理相談窓口

香川 ☎0878(74)6200
香川県綾歌郡
国分寺町新名663の1

徳島 ☎0886(98)1125
徳島県板野郡北島町
鯛浜字かや108

高知 ☎0888(66)3142
南国市岡豊町中島
331の1

東予 ☎0897(40)4501
新居浜市船木
字元船木甲4120の1

松山 ☎0899(71)2106
松山市土居田町
750の2

宇和島 ☎0895(25)6280
宇和島市中沢町1丁目
5の43

九州地区

お客様相談センター

九州 ☎092(414)3039
福岡市博多区博多駅
南1丁目2の13

修理相談窓口

福岡 ☎092(593)9036
春日市春日公園
3丁目48

佐賀 ☎0952(26)9151
佐賀市本庄町
大字本庄896の2

長崎 ☎0958(30)1658
長崎市東町1949の1

佐世保 ☎0956(39)4626
佐世保市広田3丁目
37の2

大分 ☎0975(56)3815
大分市萩原4丁目
8の35

中津 ☎0979(24)6150
中津市大字万田612の1

日田 ☎0973(24)6464
日田市玉川町3丁目
554の2

宮崎 ☎0985(85)6530
宮崎県宮崎郡清武町
下加納366の2

延岡 ☎0982(22)1138
延岡市御本町1の30

都城 ☎0986(22)2014
都城市平江2街区
13号

熊本 ☎096(367)6067
熊本市健軍本町12の3

八代 ☎0965(34)5611
八代市田中西町46

天草 ☎0969(22)3125
本渡市港町18の11

鹿児島 ☎0992(50)5657
鹿児島市与次郎1丁目
7の36

薩摩 ☎0996(25)2239
川内市永利町703の2

鹿屋 ☎0994(44)7031
鹿屋市新川町6170の1

大島 ☎0997(53)5101
名瀬市矢之脇町
10の15

沖縄地区

修理相談窓口

沖縄 ☎098(877)1207
浦添市城間4丁目
23の11

北部 ☎0980(52)3458
名護市字字茂佐914の3

中部 ☎098(933)4010
沖縄市山内2丁目26の6

参考

愛情点検

長年ご使用の本機の点検を！



このような症状は
ありませんか

- ・煙が出たり、異常なおいや音がする
- ・音が出ないことがある
- ・正常に作動しないことがある
- ・商品に破損した部分がある
- ・その他の異常や故障がある

このような症状の時は使用を中止し、
故障や事故の防止のため必ず販売店
に点検をご相談ください。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

ご購入店名	☎ () -	最寄りの ご相談窓口	☎ () -	ご購入年月日	年 月 日
				品番	SL-1200LTD